厚生労働科学研究費助成金（長寿科学総合研究事業）

分担研究報告書

「東北大学病院老年科入院患者における薬物有害事象の発生状況に関する研究」

研究分担者　荒井啓行　東北大学加齢医学研究所老年医学分野　教授

研究要旨：高齢者における薬物有害事象発生の現状を把握する目的で本調査を行った。調査対象は東北大学病院老年科で入院検査・治療を行った高齢患者で、診療録を後方視的に集計した。2013 年 4 月から 2014 年 2 月までで 115 名の対象者の情報が収集され、薬物有害事象の発生割合は 21 名（18.3%）で 2005 年の調査よりも多かった。原因として今回の調査対象における平均使用薬剤数が 7 剤程度と、2005 年の調査結果よりも多くなっていることが考えられた。

A. 研究目的

高齢者の薬物療法では使用薬全体の包括的な評価（Medication Review）を継続的に行う必要性が高い。Medication review は通常「Polypharmacy」「Adherence」「Potentially Inappropriate Medications in the elderly (PIM)」の評価を含み、共通して「薬物有害事象（Adverse drug reaction: ADR）」の発生を防ぐことがその目的のひとつとなっている。本分担研究では、ADR と、これらの Medication review に含まれる評価項目についてのデータとの関連性を検討する。

B. 研究方法

東北大学病院老年科で 2013 年 4 月以降に入院検査・治療を行った高齢患者について、その診療記録を後方視的に調査し、調査集団の特徴とともに使用薬剤数と polypharmacy、PIM 薬剤数、薬物有害事象（Adverse drug reaction: ADR）を算出する。

C. 研究結果

現在までの集計患者数は 2014 年 2 月までの集計で 115 名（男性 47 名、女性 68 名）となっている。全体の平均年齢は 79.2±7.7 歳（男性 79.3 歳、女性 79.1 歳）。服用薬剤数の平均は 7.05±3.9 剤であった。そのうち有害事象が 21 名（18.3%）で確認されている。

有害事象内訳としては、ジギタリスによる徐脈、

αブロッカーによる立ちくらみ、抗精神病薬による過鎮静、運動障害、ワーファリンと青汁を一緒に服用、無自覚低血糖、Ca 拮抗剤による薬疹である。

D. 考察

2005 年に同様の調査が行われている。その論文によると5つの大学病院入院高齢者 1289 名の調査で、ADR の発生割合は 9.2%と報告されており、我々の集計した割合よりも少ない。理由として考えられるのは、①使用薬剤数が多い（2005 年の調査での平均使用数は 5 剤程度であったが、今回の調査では使用薬剤数が平均 7 剤程度と多い）、②認知機能の低下がある患者の割合が多い、の 2 点が挙げられる。

現時点では調査は完全に終了しておらず、引き続き症例を集積していく予定である。

E. 結論

薬物有害事象の発生割合が使用薬剤数の増加、認知機能低下の双方の影響を受けている可能性が考えられる。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

1) 冨田尚希．高齢者の治療ノンアドヒアランスのタイプと対応する支援方法の現状についての検討 第 55 回日本老年医学会学術集会 2013

F．知的財産権の出願・登録状況

1．特許取得

なし

2．実用新案登録

なし

3．その他

研究協力者

東北大学加齢医学研究所　　冨田尚希